

# 小学校教員採用試験対策春季特訓講座に関する アンケート調査

川野 司・松村 千鶴

九州女子大学人間科学部人間発達学科

北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2012年6月7日受付、2012年7月19日受理)

## 要 旨

平成23年度小学校教員採用試験対策では、本学科で多くの取り組みを進めてきた。特に年度末の春季特訓講座では本講座に関するアンケート調査を行い、学生の実態把握ができた。教員採用試験の勉強では、3年生は「毎日している」が18.2%、「わりにしている」が54.5%、「あまりしていない」が22.7%という結果で、「していない」学生はいなかった。教員採用試験準備で十分でないと思っている上位3項目は、「小論や記述問題の書き方」が72.7%、「面接練習と対応力」が66.7%、「集団討論の練習」が66.7%、「全体的な勉強不足」が60.6%であった。教員採用試験の受験で心配している上位3項目は、「勉強不足」が69.7%、「面接のこと」が66.7%、「教員採用試験の情報収集不足」が60.6%であった。また春季特訓講座の満足度は、「満足している」と「だいたい満足している」を合わせると、全員の学生が本学科教員採用試験対策について肯定的評価をしていた。今後とも、学科の教員が協力して教員採用試験で数多くの現役合格者を出していきたいと考えている。

## 1. はじめに

平成23年度本学科における小学校教員採用試験の取り組みについては、小学校教員採用試験対策委員会を中心に進めてきた。具体的には、「教員養成特別講座Ⅰ」(3年前期・15回)、「教員養成特別講座Ⅱ」(3年後期・17回)、「教員養成特別講座Ⅲ」(4年前期・15回)、「教員養成講座プレ講座」(2年後期・11回)、「教員採用試験直前セミナー」(4年前期・3日間)などを行った。内容の詳細は省くが、教職教養、専門教科(全科)、面接、集団討論、模擬授業、小論文など多くのことを進めてきた。また年度末の2月～3月にかけて、平成24年度の教員採用試験対策の効率化を図るために、「春季特訓講座」を開催した。春季特訓講座に関しては、一部、1・2年生の参加を認めたところ、3年生を中心に70名の申し込みがあった(1年15名、2年15名、3年40名)。講座最終日(3月30日)に春季特訓講座アンケートを実施した。本来は、23年度各期における小学校教員採用試験対策の取り組みを全体的にまとめた方が、その全体像を把握するためには適切であると思われた。しかし

その関係資料の集約が不十分であったので、今回は春季特訓講座に限定してアンケート集計を中心にまとめ、本講座の実態把握を目的とした。

## 2. 春季特訓講座の目的

春季特訓講座を総括し、学生の教員採用試験に関する全般的傾向を把握するとともに、4月からの特別講座の授業内容を計画する際の参考にすることを意図した。学生に掲示した春季特訓講座内容は下記のものである。

小学校教員採用試験対策春季特訓講座について<教員採用試験及び春季講座説明会配付資料>

平成24年1月23日 小学校教員採用試験対策委員会

下記の通り、小学校教員採用試験対策春季特訓講座を実施します。対象は小学校受験志望者の3年生を中心としますが、意欲のある2年生、1年生も参加できます。積極的に申し込んでください。

### ① 東京アカデミー委託「教員採用試験対策春季講座<前期>」

1 時 期：平成24年2月6日(月)～平成24年2月10日(金) 平日5日間

2 場 所：H101

3 日 程

	2/6(月)	2/7(火)	2/8(水)	2/9(木)	2/10(金)
9:00～10:30	国語	算数	理科	理科	社会
10:45～12:15	国語	算数	算数	理科	社会

4 内 容：過去問を中心とした演習形式の講義を行う。頻出分野や苦手分野を中心に扱う

### ② 大学教員担当「春季特訓講座」＋「地域対応模試」＋「チューター相談」

1 時 期：平成24年2月13日(月)～2月17日(金)、

2月22日(水)、29日(水)、3月7日(水)、14日(水) 平日8日間

2 場 所：H101

3 日 程

	2/13(月)	2/15(水)	2/16(木)	2/17(金)
9:00～10:30 (担当教員)	願書の書き方(中村)	願書の書き方(中村)	算数模擬授業(山下)	集団討論(川野)
10:45～12:15 (担当教員)	小論文(中谷)	小論文(中谷)	算数模擬授業(山下)	集団面接(松村)
13:00～17:00		チューター相談		

月日	2/22(水)	2/29(水)	3/7(水)	3/14(水)
9:00～10:30 (担当教員)	集団討論(川野)	地域模試(川野)	集団討論(川野)	集団討論(川野)
10:45～12:15 (担当教員)	集団面接(松村)	地域模試(松村)	集団面接(松村)	集団面接(松村)
13:00～17:00	チューター相談※	チューター相談※	チューター相談※	チューター相談※

※4年生による受験地に関する相談や学習に関する相談

③ 東京アカデミー委託「教員採用試験対策春季講座〈後期〉」

1 時 期：平成24年3月26日(月)～平成24年3月30日(金)

平日5日間は前期講座の復習を行う。教職教養は過去問を中心とした演習形式の講義を行い、特に頻出分野や苦手分野を中心に扱う。

2 場 所：H101

3 日 程

	3/26 (月)	3/27 (火)	3/28 (水)	3/29 (木)	3/30 (金)
13:30～15:00	国語	算数	教育原理	教育原理	教育法規
15:10～16:40	社会	理科	教育原理	教育法規	教育法規

4 内 容：小学校全科

### 3. アンケート調査

平成24年3月30日の春季特訓講座終了直後に、下のアンケート用紙を配布して回収した。この日の受講学生は1～3年生の総計33名（1年5名、2年5名、3年23名）であった。

【小学校教員採用試験対策春季特訓講座および教員採用試験のアンケート】

下の各問で、当てはまる番号に○をつけてください（平成24年3月30日実施）。

問1 あなたの学年・学科等について教えてください。

学年【1年・2年・3年】、学科【1人間発達学科・2人間文化学科】

問2 東京アカデミーの授業でよかったものを選んでください（○はいくつでも）。

1 国語 2 算数 3 理科 4 社会 5 教育原理 6 教育法規、

問3 大学教員の授業でよかったものを選んでください（○はいくつでも）。

1 願書の書き方 2 算数模擬授業 3 国語模擬授業 4 小論文

5 家庭科 6 集団討論 7 集団面接

問4 チューター相談を4年生にやってもらいましたが、どうでしたか（○は一つ）。

1 役立つ 2 わりに役立つ 3 あまり役立たない 4 役立たない

問5 模擬試験を1月と3月に行いましたが、どうでしたか（○は一つ）。

1 役立つ 2 わりに役立つ 3 あまり役立たない 4 役立たない

問6 あなたは、大学推薦を考えていますか（○は一つ）。

1 考えている 2 いくらか考えている 3 あまり考えていない 4 考えていない

問7 教員採用受験地はどこを考えていますか（○はいくつでも）。

1 関東 2 関西 3 山口 4 福岡 5 長崎 6 佐賀 7 熊本 8 大分  
9 宮崎 10 鹿児島 11 沖縄 12 その他（都道府県名を書く）

- 問8 教員採用試験に向けて、どれくらいの割合で勉強をしていますか (○は一つ)。  
1 毎日している 2 わりにしている 3 あまりしていない 4 していない
- 問9 あなたは、現在下のどの内容に力を入れたいと考えていますか (○はいくつでも)。  
1 教職教養 2 一般教養 3 専門教科 (全科) 4 小論文 5 模擬授業  
6 集団討論 7 集団面接 8 個人面接 9 実技
- 問10 今後、どの分野・領域に重点を置いた指導や講座を希望しますか (○はいくつでも)。  
1 教職教養 2 一般教養 3 専門教科 (全科) 4 小論文 5 模擬授業  
6 集団討論 7 集団面接 8 個人面接
- 問11 あなたは現在、生涯学習センターで東京アカデミーの講座を受講していますか (○は一つ)。  
1 受講している 2 受講していない 3 受講してみようかと考えている
- 問12 あなたは、現在、どのようなボランティア活動をしていますか (○はいくつでも)。  
1 中間市での学習支援 2 中間市以外の学校での学習支援 3 民間施設等での子ども支援  
4 その他の活動 (具体的に書いてください)
- 問13 あなたは、現在、アルバイトをしていますか (○はいくつでも)。  
1 している 2 していない 3 しようと考えている 4 やめようと考えている
- 問14 教員採用試験の対策や指導についての要望は何ですか。下に自由に書いてください。
- 問15 総合的に見て、小学校教員採用試験対策春季特訓講座の評価について知らせてください (○は一つ)。  
1 満足している 2 だいたい満足している 3 あまり満足していない 4 満足していない
- 問16 あなたの現在の成績は、おおまかに下のどれにあてはまりますか (○は一つ)。  
1 よい 2 わりとよい 3 あまりよくない 4 よくない
- 問17 あなたが、現在、教員採用試験の受験で気にしている (心配している) ことは何ですか (○はいくつでも)。

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| 1 採用試験に関する情報収集の不足 | 2 願書や申請書類の書き方         |
| 3 願書や関係書類の送り方     | 4 願書の入手の仕方            |
| 5 自分の勉強不足のこと      | 6 受験先の都道府県をどこにするか     |
| 7 ボランティア経験がないこと   | 8 自己PRがうまく書けるかどうか     |
| 9 教職教養のこと         | 10 一般教養のこと            |
| 11 専門教科 (全科) のこと  | 12 実技試験のこと            |
| 13 集団討論のこと        | 14 面接のこと              |
| 15 小論文のこと         | 16 その他 (下に自由に書いてください) |

問18 あなたが、現在、教員採用試験の準備で、十分でないと思うものは何ですか

(○はいくつでも)。

1 小論文や記述問題の書き方	2 集団討論で人の意見を聞いて自分の意見を述べる力
3 集団討論の練習	4 面接練習と面接に対する対応
5 実技スキル(水泳・音楽・英会話等)	6 苦手分野をマスターしてないこと
7 全体的な勉強不足	8 一般教養
9 教職教養	10 専門教科(全科)の知識
11 基礎力	12 応用力
13 集中力	14 受験の対策法
15 受験の心構え	16 受験の緊張感
17 その他(下に自由に書いてください)	

問19 あなたが今後、教員採用試験に向けて、つけたい力は何ですか(○はいくつでも)。

1 教職教養	2 一般教養
3 専門的知識、技能、総合力	4 先ず1次を合格する力
5 合格できる学力と人間力	6 受験内容をもとに勉強を継続する
7 実習を踏まえた実践力	8 小論文を論理的に書く力
9 出題傾向を知り問題に慣れる	10 書かれていることを理解し、的確に答えられる力
11 分からないことは、自分で調べる実行力	12 教師としての指導力
13 ミュニケーション力	14 社会人としての自覚
15 積極的な発言力	16 学習習慣をつける
17 主な答申、指導要領、法令などを知る	18 その他(下に書いてください)

#### 4. アンケート結果

##### (1) 回答学生について

図1はアンケートに回答した学年別の数である。学生数は33人で、1年生が5人、2年生が5人、3年生が22人、無回答が1名であった。3年生の受講者の割合が多いのは当然であるが、今回は下級生にも意欲があり小学校教員を目指す学生に広く門戸を開いた。小学校教員採用試験に合格する学生を育てる取り組みは、1年生の段階から系統的に組織的に継続していく取り組みが重要である。

図2は、春季特訓講座を受講した学生でアンケートに回答した学生を学科別にまとめたグラフである。人間発達

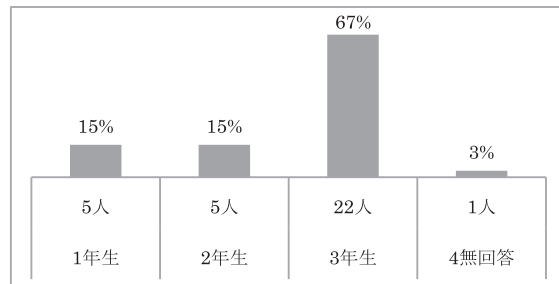


図1 春季特訓講座の回答学生数

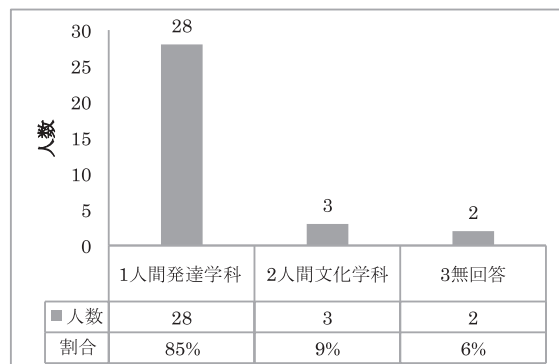


図2 学科別の回答学生数

学科の学生が多いのは、中学校教員よりも小学校教員を目指す学生が多いことのためである。

## (2) 外部委託講座について

大学では、司法試験や管理栄養士試験をはじめとする国家試験を受験する学生がいる。大学の学部や学科では、国家試験や様々な資格取得に資するための専門的知識・技能の修得を目指す教育が行われている。そうしたなか、専門学校等の講師を招いて学生を指導する場面も多くなっている。本講座において外部講師の活用を図ることは、学生の学ぶ意欲を育てる上からも効果

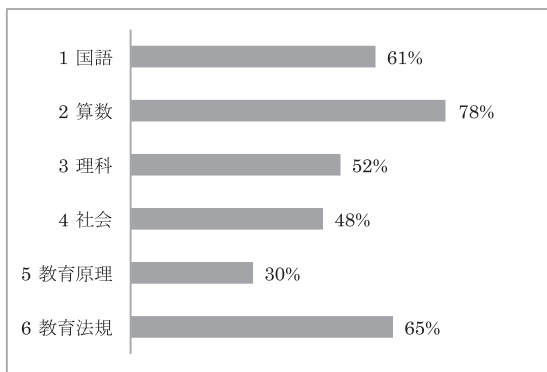


図3 外部委託講座でよかった授業

的であることが予想された。そこで、これまでの指導状況と学生の学習状態を考えて東京アカデミーの講師を春季特訓講座の中に取り入れることにした。

外部講師による授業として、国語、算数、理科、社会、教育原理、教育法規の10回授業を計画した。図3は、学生が良かったと評価する授業の割合を示したグラフである。学生が良かったと評価する上位3つは、算数(78%)、教育法規(65%)、国語(61%)であり、下位3つは、教育原理(30%)、社会(48%)、理科(52%)であった。

表1は、外部講師の授業をクロス集計した表である。表2の対角線上の数値は、各教科を良かったと回答した学生の人数であり、この数値は単純集計結果と同じである。

表1 各教科等のクロス集計

クロス集計	1 国語	2 算数	3 理科	4 社会	5 教育原理	6 教育法規
1 国語	16	14	9	9	7	13
2 算数	14	24	13	12	11	16
3 理科	9	13	18	9	8	11
4 社会	9	12	9	13	8	12
5 教育原理	7	11	8	8	12	10
6 教育法規	13	16	11	12	10	21

対角線以外のセルを見てみよう。国語が良いと回答した学生(16人)の中で算数(14人)と教育法規(13人)を良いと回答している学生は多いものの、理科(9人)、社会(9人)、教育原理(7人)を良いと回答している学生は前者に比較して少ない。その理由はいろいろ考えられるが、その一つに学生の授業に対する見方・考え方や自分自身の教員採用試験に向けての準備状況などが予想される。そこで外部講師の授業について数量化3類で分析を試みた。表2にデータの固有値と寄与率および累積寄与率を示した。

数量化3類は、カテゴリーデータの変数相互の関連を調べることで、潜在変数を見つけて出してその潜在変数をもとに、変数の類似性を明らかにする手法である。この場合、1～6の変数に対する類似性や学生の回答の仕方に一定の傾向が見られることが予想された。数量化3類を行うと2つの軸が得られた。軸は、変数と回答者を得点化したものであり、変数を得点化したものをカテゴリースコア、回答者を得点化したものをサンプルスコアと呼ぶ。軸は潜在変数を表すものと考えられる。表3に2つの軸の得点を示した。

表2 教科等の固有値

軸 No.	固有値	寄与率 (%)	累積 (%)	相関係数
1	0.2653	32.9%	32.9%	0.5151
2	0.1718	21.3%	54.2%	0.4145

表3 2軸のカテゴリースコア

	1軸		2軸
3 理科	2.122171	5 教育原理	1.423265
2 算数	-0.28357	2 算数	1.01579
5 教育原理	-0.44751	4 社会	0.183744
6 教育法規	-0.5243	3 理科	-0.14874
4 社会	-0.56536	1 国語	-0.5529
1 国語	-0.58366	6 教育法規	-1.54222

図4は1軸をグラフにしたものであり、図5は2軸をグラフにしたものである。図4の棒グラフを見れば分かるように、1軸のプラス方向に「理科」の得点が大きく位置している。一方マイナス方向に「社会」「国語」が位置しているので、1軸は理系と文系を弁別する潜在変数を意味していると考え、「理系文系弁別軸」と命名した。

同様に、図5から2軸は、プラス方向に「教育原理」「算数」が位置しており、マイナス方向に「教育法規」「国語」が位置している。2軸の上位に含まれる「算数」「国語」を一般教養の内容と考え、2軸は教職教養と一般教養を弁別しているものと判断して、「教職教養軸」と命名した。

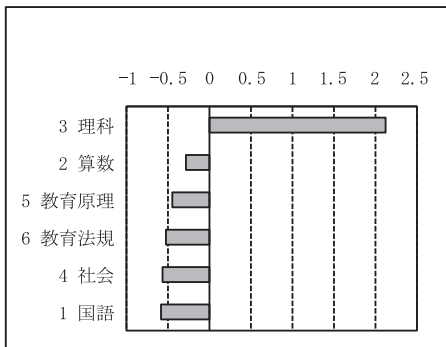


図4 カテゴリースコア (1軸)

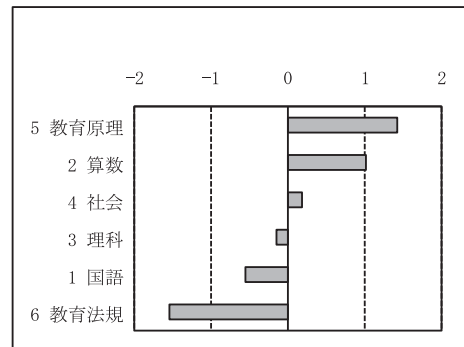


図5 カテゴリースコア (2軸)

さらに、1軸を横軸に、2軸を縦軸にとってカテゴリースコアを散布図にしたグラフが図6である。

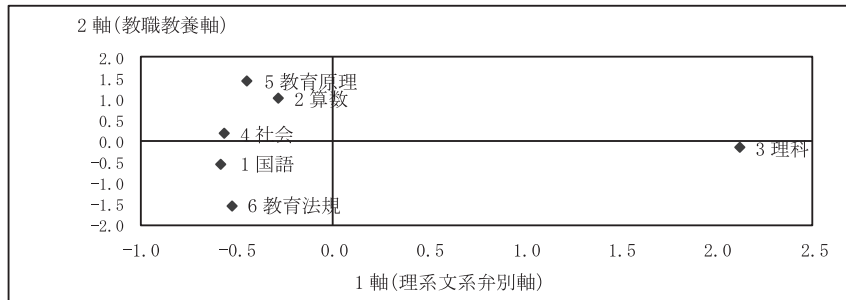


図6 カテゴリースコア点グラフ

### (3) 大学授業について

大学教員が担当する授業で良かった割合の上位3つは、「集団面接」「集団討論」「願書の書き方」であった。割合が低かったものは、「算数模擬授業」「国語模擬授業」「家庭科」であった。

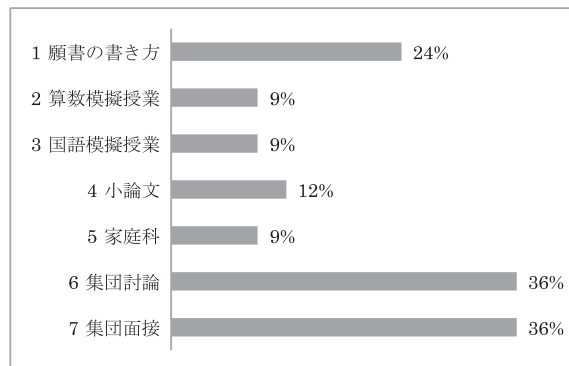


図7 大学授業で良かった内容

表4 大学授業のクロス集計表

クロス集計	1 願書の書き方	2 算数模擬授業	3 国語模擬授業	4 小論文	5 家庭科	6 集団討論	7 集団面接
1 願書の書き方	8	2	1	3	0	6	7
2 算数模擬授業	2	3	2	1	0	2	2
3 国語模擬授業	1	2	3	1	0	1	1
4 小論文	3	1	1	4	1	3	3
5 家庭科	0	0	0	1	3	2	2
6 集団討論	6	2	1	3	2	12	10
7 集団面接	7	2	1	3	2	10	12

大学授業についても上述しているように、外部委託による授業分析が可能である。

### (4) 学年別集計グラフ

質問票は、カテゴリーから1つを選択する質問項目(SA)と、多岐選択の質問項目(MA)の2通りの内容であった。そこでシングルアンサー(SM)の質問項目について学年毎に集計したグラフを作成した。



## ① 模擬試験

今回の模擬試験は、東京アカデミーが実施している各都道府県毎の地方模試の形態での模擬試験であった。今回の地方模擬試験では、多くが教職教養と一般教養の内容であった。地方により専門教科（全科）を課しているところもあった。

模擬試験を受験した効果を尋ねた結果は図8であった。模擬試験受験者のほとんどが3年生だったので、3年生の多数が模擬試験は効果があると思っている。

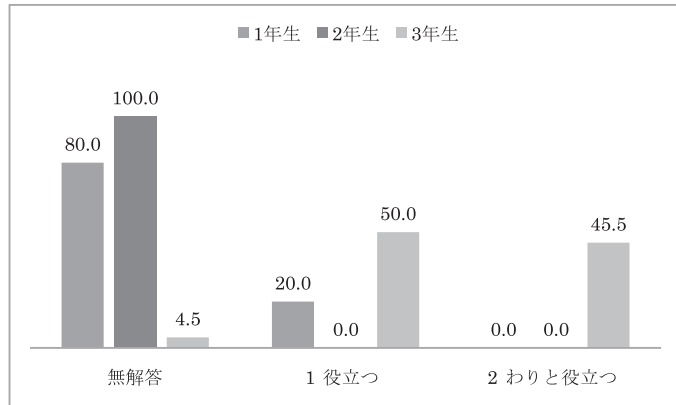


図8 模擬試験の結果

## ② 大学推薦

大学推薦については、学生の多くが消極的のようだ。

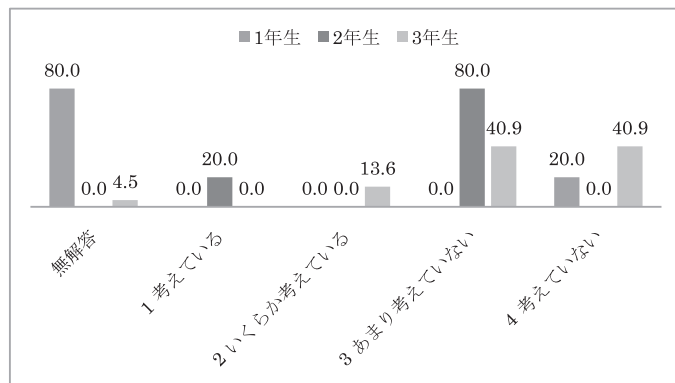


図9 大学推薦

## ③ 教員採用試験の勉強

教員採用試験の勉強を尋ねたところ、3年生では、「毎日している」学生が18.2%、「わりにしている」学生が54.5%であった。「していない」学生はいなかったものの、「あまりしていない」と回答した学生が22.7%いた。

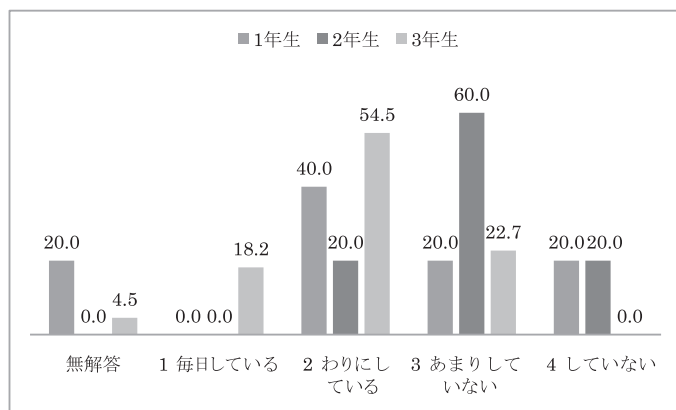


図10 教員採用試験の勉強

一方、「わりにしている」と回答した学生は、1年生では5名中2名（40%）が、2年生では5名中1名（20%）であった。「あまりしていない」は、1年生では1名（20%）、2年生では3名（60%）であった。1，2年生からすでに採用試験の勉強をしている学生がいることが分かった。

#### ④ 東京アカデミーの受講

正課授業ではなく、生涯学習センターで行われている外部機関による講座を受講している学生は3年生では36.4%（22名中8名）であった。2年生では5名中4名（80%）が受講を考えているという回答であった。

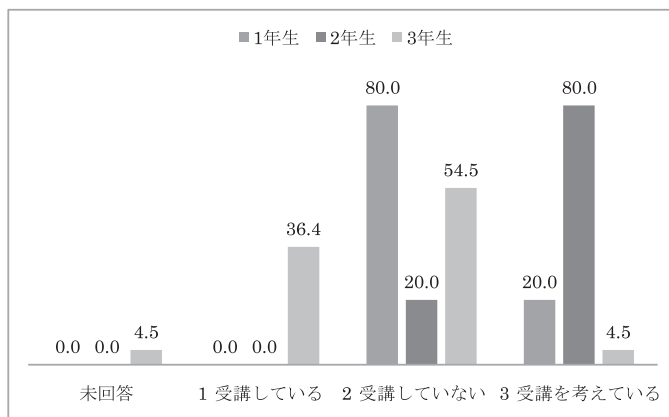


図11 アカデミー講座の受講

#### ⑤ アルバイト

アルバイトをしている学生は1，2年生では多いが、3年生では約3割の学生がしていた。22名中10名がアルバイトをしていない。また4名がアルバイトを止めようと考えていた。

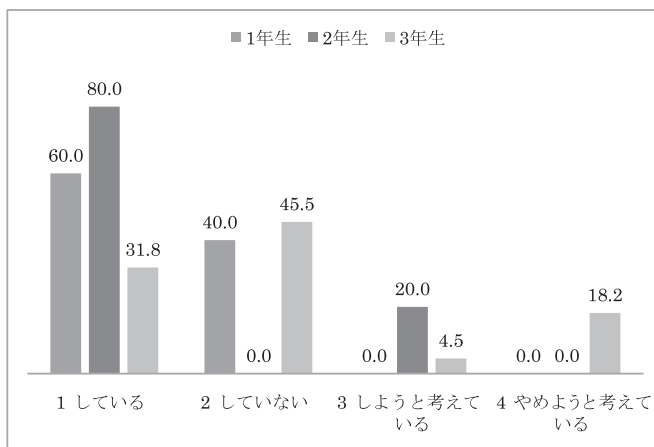


図12 アルバイトの有無

## ⑥ ボランティア

学習支援のボランティアについては、1～3年生の多くが福岡県中間市の学習支援に関わりを持っていた。

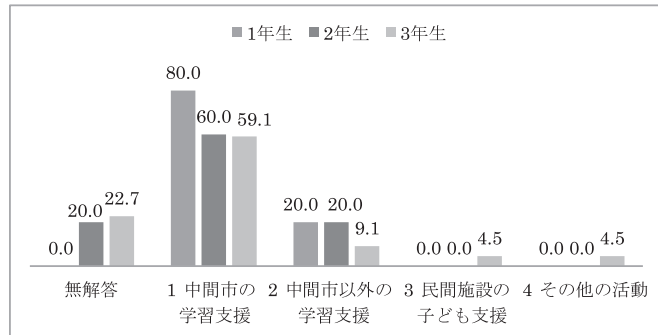


図13 ボランティアの有無

## (5) 全体集計のグラフ

## ① 教員採用受験地



図14 採用試験受験地

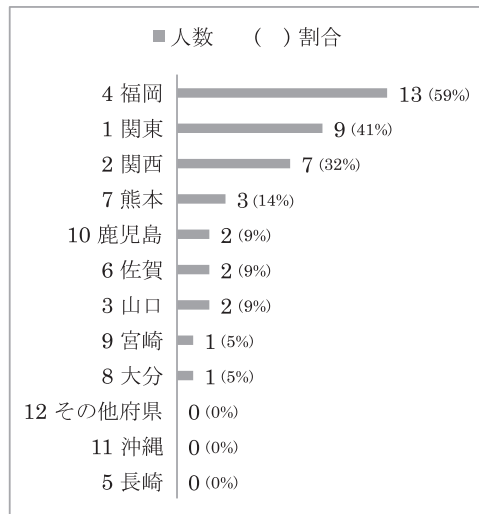


図15 3年生の教員採用試験受験地

図14は、35人の学生に対して教員採用試験の受験地を無制限法（〇はいくつでも）で尋ねた結果である。図15は3年生22人の受験地である。

複数受験地を考えている学生が多い中、福岡県を中心に九州各県内を受験する学生が多い。

## ② 春季特訓講座の評価

総合的に見て、この春季特訓講座についての満足度を尋ねてみた。32人中「満足している」が14人（44%）、「だいたい満足している」が18人（56%）であった。

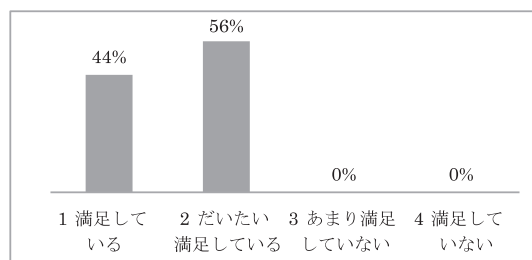


図16 春季特訓講座の評価

③ 教員採用試験準備で十分でないこと

教員採用試験の準備で十分でないと思っ  
ている内容を尋ねたところ、図17のよ  
うな内容であった。上位3項目は、「小  
論や記述問題の書き方」(73%)、「面  
接練習と対応力」(67%)、「集団討  
論の練習」(67%)、「全体的な勉強  
不足」(61%)であった。下位3項目  
は、「受験の心構え」(21%)、「受験  
の緊張感」(15%)、「その他」(6%)  
であった。逆の見方をすれば、上位  
項目に力を入れて勉強する必要がある  
が、下位項目はある程度の準備が  
できていると考えられる。

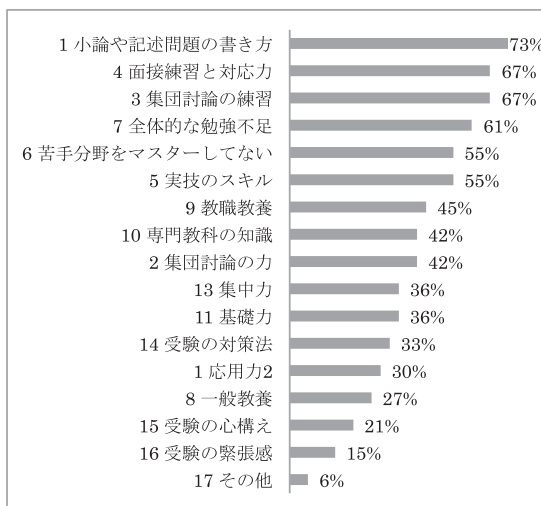


図17 採用試験で十分でないこと

④ 教員採用試験に向けてつきたい力

今後、教員採用試験に向けてつ  
きたい力を尋ねたところ、図18のよ  
うな内容であった。「合格の学力と  
人間力」(70%)、「専門知識」(58%)  
、「教職教養」(58%)、「教師とし  
ての指導力」(55%)が上位3項目  
であった。

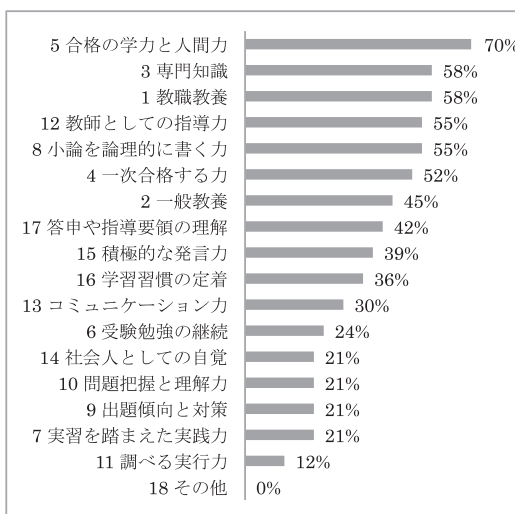


図18 採用試験でつきたい力

## ⑤ 教員採用試験で心配していること

表5は、教員採用試験について心配していることを尋ねた結果のクロス集計である。

表5 クロス集計（回答人数表）

変数名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1 教採の情報収集不足	20	11	10	10	14	4	4	11	10	7	7	7	11	11	11	2
2 願書・申請書類の書き方	11	12	9	9	9	2	3	10	6	5	6	5	8	9	9	1
3 願書・関係書類の発送	10	9	10	9	8	1	3	9	6	4	4	4	6	7	8	1
4 願書の入手法	10	9	9	11	8	1	3	10	7	4	5	6	6	8	7	1
5 勉強不足	14	9	8	8	23	3	3	10	11	6	7	10	15	15	12	2
6 受験先を何処にするか	4	2	1	1	3	4	1	1	2	2	2	2	3	2	1	0
7 ボランティア経験がない	4	3	3	3	3	1	4	4	3	2	3	2	2	2	2	0
8 自己PRが書けるか	11	10	9	10	10	1	4	16	8	6	7	7	11	11	12	1
9 教職教養のこと	10	6	6	7	11	2	3	8	16	10	10	6	9	13	10	3
10 一般教養のこと	7	5	4	4	6	2	2	6	10	11	8	5	8	10	8	0
11 専門教科のこと	7	6	4	5	7	2	3	7	10	8	12	6	8	11	8	2
12 実技試験のこと	7	5	4	6	10	2	2	7	6	5	6	12	10	10	7	0
13 集団討論のこと	11	8	6	6	15	3	2	11	9	8	8	10	18	14	14	1
14 面接のこと	11	9	7	8	15	2	2	11	13	10	11	10	14	22	13	2
15 小論文のこと	11	9	8	7	12	1	2	12	10	8	8	7	14	13	17	3
16 その他	2	1	1	1	2	0	0	1	3	0	2	0	1	2	3	3

表5の各セル内の数値は回答人数である。対角線上の値は、「教員採用試験の受験で気にしている（心配している）こと」を尋ねた結果の単純集計結果と同じ人数である（図19）。人数が多い上位3項目は、「勉強不足」（23人：70%）、「面接のこと」（22人：67%）、「教員採用試験の情報収集不足」（20人：61%）であり、人数が少ない下位3項目は、「受験先をどこにするか」（4名：12%）、「ボランティア経験がない：12%」（4名）、「その他」（3名：9%）であった。

次に対角線以外のセルを見てみよう。「願書・関係書類の発送」と「願書の入手法」の交差するセルの値は9である。これは、「願書・関係書類

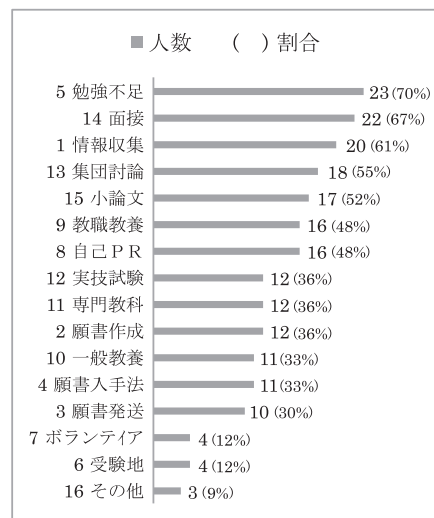


図19 採用試験の心配事

の発送」と「願書の入手法」の両方を回答した学生が9人いるという意味である。「願書・関係書類の発送」を回答した学生が10人、「願書の入手法」を回答した学生が11人に対して9人という数の出現割合は大きく、「願書・関係書類の発送」と「願書の入手法」の回答傾向は類似していると言える。同様に考えると、「教職教養のこと」と「一般教養のこと」、「教職教養のこと」と「専門教科のこと」も類似していると言える。「勉強不足」と「受験先を何処にするか」、また「勉強不足」と「ボランティア経験がない」が交差するセルの値は、それぞれ3であり値が小さい。このことから「勉強不足」と「受験先を何処にするか」、また「勉強不足」と「ボランティア経験がない」は回答傾向が類似していないと言える。

図20は、数量化3類を行って16の質問項目の類似性を見るために、横軸を軸1、縦軸を軸2としたカテゴリースコアの散布図である。

4つの波線で囲んだカテゴリーはカテゴリー項目間の距離が近いもの同士である。カテゴリー間の距離計算はワード法によった。さらにその距離間を樹形図に示したものが図21である。図21から分かるように、多くのカテゴリースコアが近い距離に位置しており、かつ波線で囲んだひとつかたまりとして分布している。

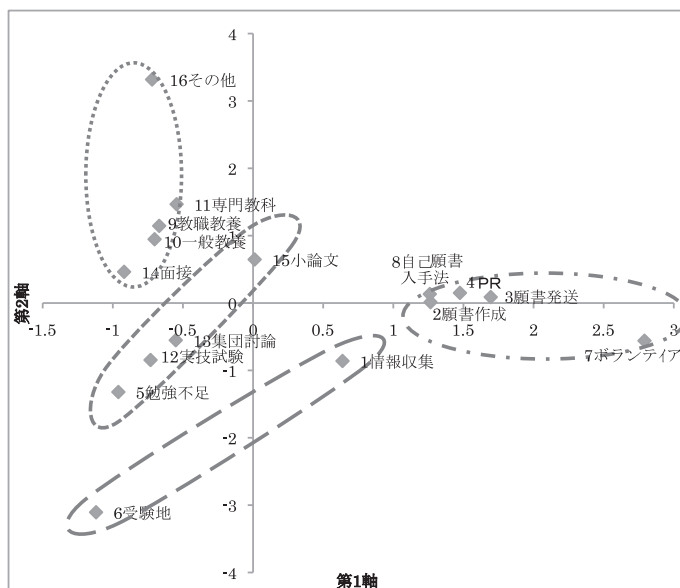


図20 第1軸×第2軸

図20と図21を見比べると、図20の波線で囲んだカテゴリーが、樹形図でも近い距離に位置していることが分かる。例えば、図20の散布図の原点付近にある「5勉強不足」「12実技試験」「13集団討論」「15小論文」は、図21の樹形図では、上から3番目にあり、このカテゴリーは完全に一致している。また図20の「1情報収集」と「6受験地」の2つのカテゴリーは、図21の樹形図では、一番上のクラスターとして位置している。さらに図20の「9教職教養」「10一般教養」「11専門教科」「14面接」「16その他」は、図21では一番下にある。この5カテゴリーの中で、「16その他」は他の4つのカテゴリーとの距離が離れていることが樹形図から分かるが、そのことは、図20では「16その他」の点が、他の4点から離れた地点に位置していることにつながっている。

そこで図21の樹形図のクラスターの4グループについて上から順に、「情報収集」「願書

内容」「二次対策」「一次対策」と命名した。

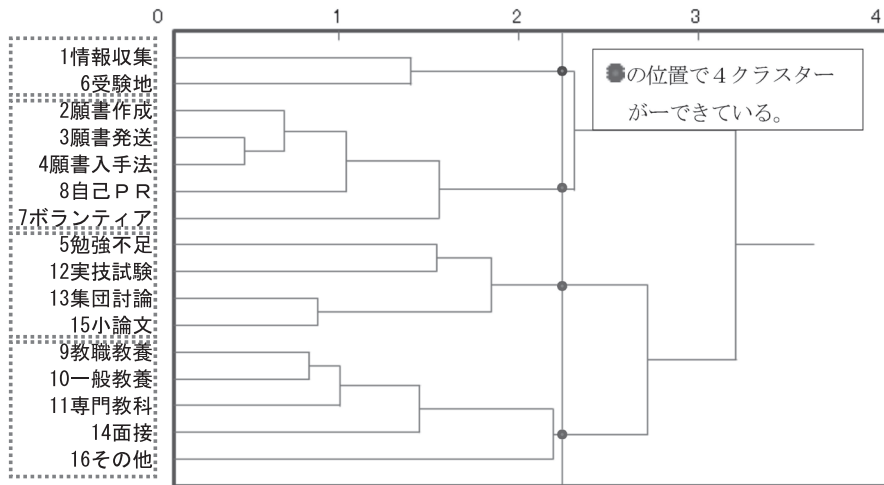


図21 樹形図

## 5 おわりに

今回のアンケート調査により、春季特訓講座に関わる内容や学生の教員採用試験について全般的傾向を把握することができた。平成23年度は講座やセミナー等の名称で、教員採用試験対策に関わるいろいろな取り組みを行ってきたが、多くの学生はこうした大学側の教員採用試験対策の取り組みに満足していることが分かった。つまり講座についての満足度は、「満足している」と「だいたい満足している」を合わせると、32人全員が肯定的評価をしていたことは、こうした取り組みを今後も継続していくことが必要であるといえる。また、模擬試験や講座の中に外部専門業者を活用することも効果的である。今回の春季特訓講座では、外部業者による委託講座を取り入れたが、学生には好評であった。ただ外部委託業者を対策講座に取り入れるには、予算措置が必要となるので、そのことを当初計画に組み込んでおくことが大切である。

さらに教員採用試験については、真面目に勉強している学生の姿がうかがわれる一方、願書や小論文の書き方、教職教養や専門教科、面接、集団討論、模擬授業など、教員採用試験の受験について多くの不安を抱えていることが具体的に分かった。そうした不安や心配な事項を少しでも解消するためには、個に応じた指導を継続して不安要因をなくす取り組みが必要である。そして何よりも重要なことは、各学生に教員採用試験に向けて自信を持たせることである。現在、3、4年生は教員採用試験特別講座を受けている。特に4年生は7月に実施される平成25年度教員採用試験受験のために、お互いに励まし合い、協力して受験勉強に取り組んでいる。学生の真摯な姿を見るたびに、学生の思いが実現することを願わずにはいられない。今後も学科の全教員が協力して、学生一人ひとりの夢が実現できるように支援

を継続していきたいと考えている。

#### 参考文献

- (1) 木下栄蔵著『多変量解析入門第2版』近代科学社 2009年
- (2) 内田治著『すぐわかるEXCELによる多変量解析第2版』東京図書 2005年
- (3) 菅民郎著『すべてがわかるアンケートデータの分析』現代数学社 2010年



## Survey of intensive training courses elementary school teacher recruitment exam spring

Tsukasa KAWANO, Chizuru MATSUMURA

Department of Education and psychology, Faculty of

Humanities, Kyushu Women's University

1-1 Jiyugaoka Yahatanishi-ku, Kitakyushu-Shi Fukuoka 807-8586 Japan

### Abstract

In elementary school teacher employment exam 2011, has been making efforts in many department. At the end of the spring special lectures conducted a survey on this course in particular, was able to grasp reality of the students. In the study of recruitment examination teachers, “not”, the result of 18.2% third grade are “every day”, 54.5% “which has been to divide”, that 22.7% “not much” Yes student did not. The top three they do not see enough in the exam preparation employed teachers, 72.7% for “writing of the problem and descriptive essay,” 66.7% “ability to respond and practice interview”, and 66.7% for “practice of group discussion”, “The overall lack of study” was 60.6%. The top three items that are concerned with teacher employment exam, 69.7% “lack of study,” 66.7% “of the interview that,” “lack of information-gathering teacher employment exam” was 60.6%. Together with spring crash course satisfaction, and “satisfied” to “satisfied” alternative, students of all evaluations had been positive about teacher employment exam department also. Believes that in the future, who want to go pass out in a number of active faculty recruitment examination with the cooperation of faculty of the Department.

Keyword: teacher recruitment exam/cluster analysis/Category 3 quantification/Crosstab

